

氷見市の人口等について

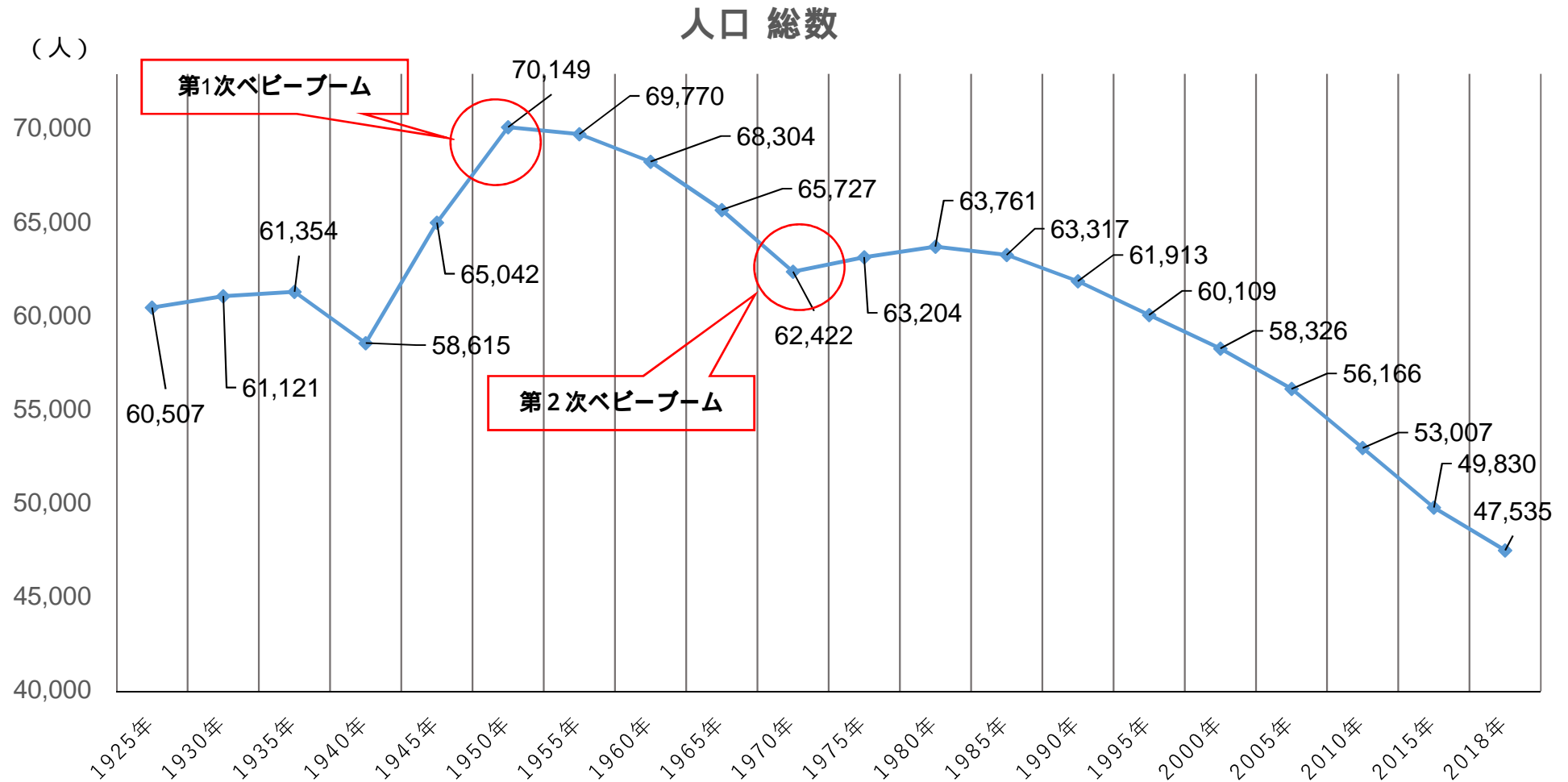
令和元年 5月 27日

目次

- (1) 氷見市の人口の推移
- (2) 自然動態と社会動態の推移
- (3) 社会動態の推移
- (4) 社会動態の傾向
- (5) 自然動態の推移
- (6) 自然動態の傾向
- (7) 将来推計

(1) 氷見市の人口の推移

氷見市の人口は、第1次ベビーブーム直後に最大をとった後減少をはじめ、第2次ベビーブームで一時増加がみられたものの、以降は減少の一途をたどっています。

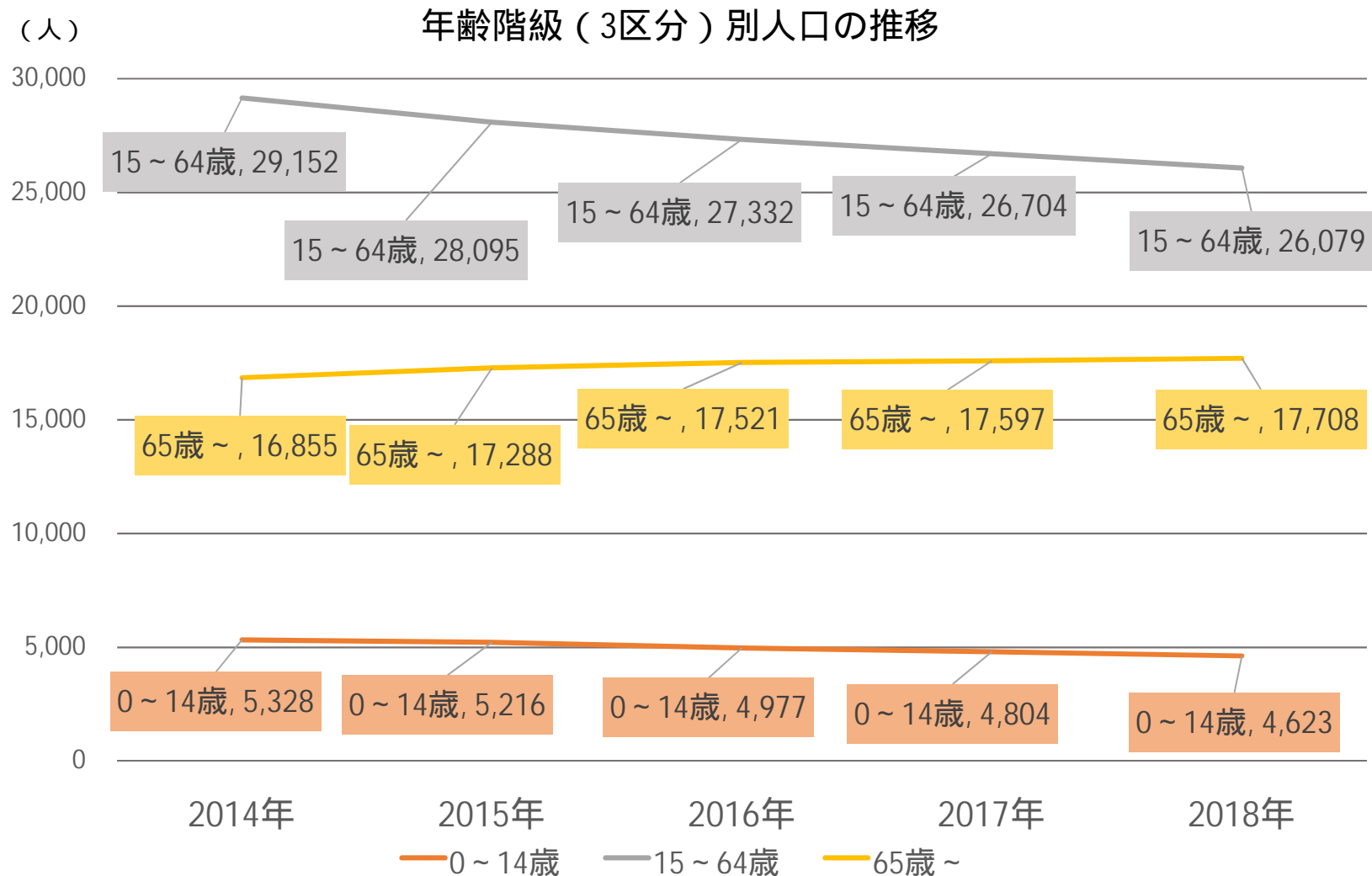


* 氷見市の統計を基に作成

- 注1 1953年までは常住人口調査による数値であるが、1950年については国勢調査によるものです。
 注2 1954年4月1日から一郡一市（現在の氷見市）となりました。
 注3 1954年以前については現在の市域に相当する地域の人口であるが、1945年までは旧太田村の数値を含みます。
 注4 1948年度から当該年度の1月1日現在の数値です。

(1) 氷見市の人口の推移 (住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数を基に作成 調査期間 各年1月1日～12月31日)

生産年齢人口(15～64歳)、年少人口(0～14歳)が減少しているのに対して、高齢人口(65歳～)は増加してきており、高齢化が進展しています。

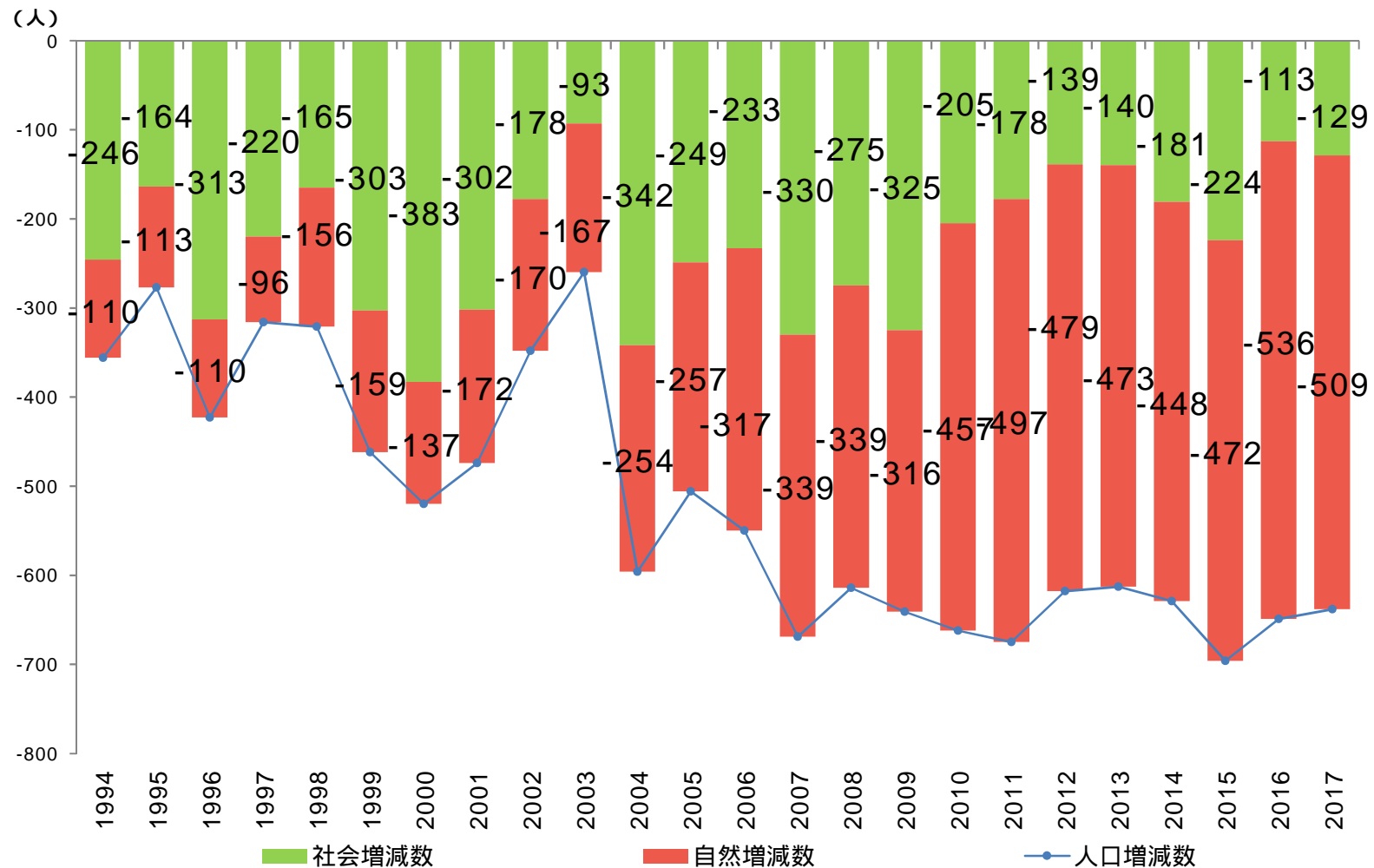


(2) 自然動態と社会動態の推移

自然動態と社会動態の推移

人口動態に対する比重の変化

2004年以前 自然動態 < 社会動態
 2005年以降 自然動態 > 社会動態



出典 RESAS (住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数を基に再編加工)

注記 社会増減数の中に職権で住民票を消除された者の数は含まない。

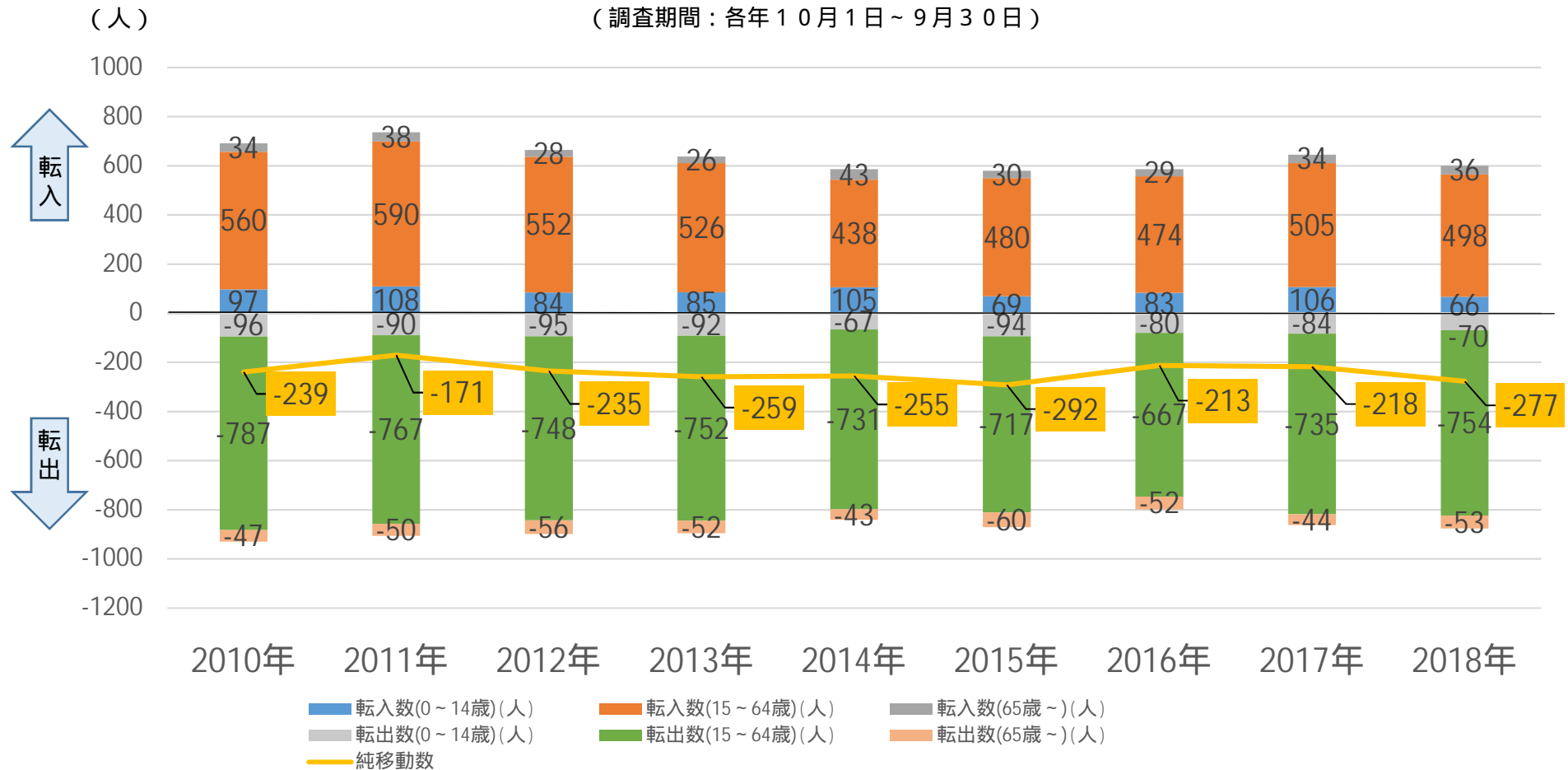
(3) 社会動態の推移

転入者数と転出者数の推移 (住民基本台帳移動報告を基に作成 調査期間 各年1月1日～12月31日)

- 氷見市では転出超過の状態が続いています。
- 特に、生産年齢人口の転出数が多くなっています。
- 総合戦略策定時(2015年)と比較して、2016年、2017年は純減数が縮小していましたが、2018年は策定時の値近くまで拡大しています。

社会動態の推移

(調査期間：各年10月1日～9月30日)



(4) 社会動態の傾向

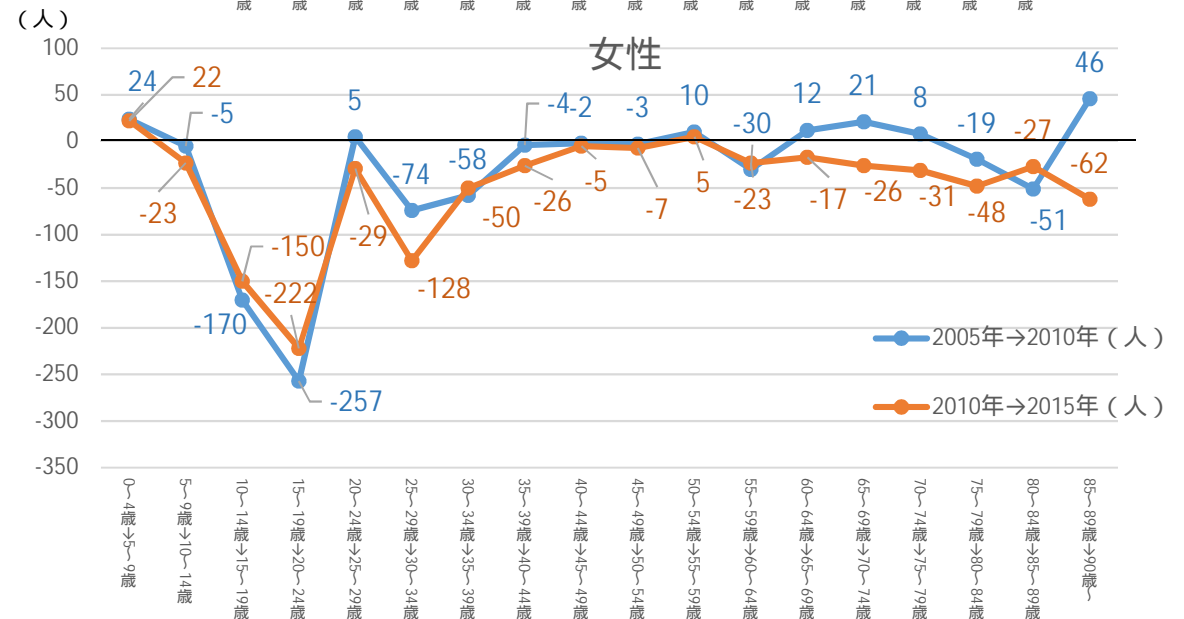
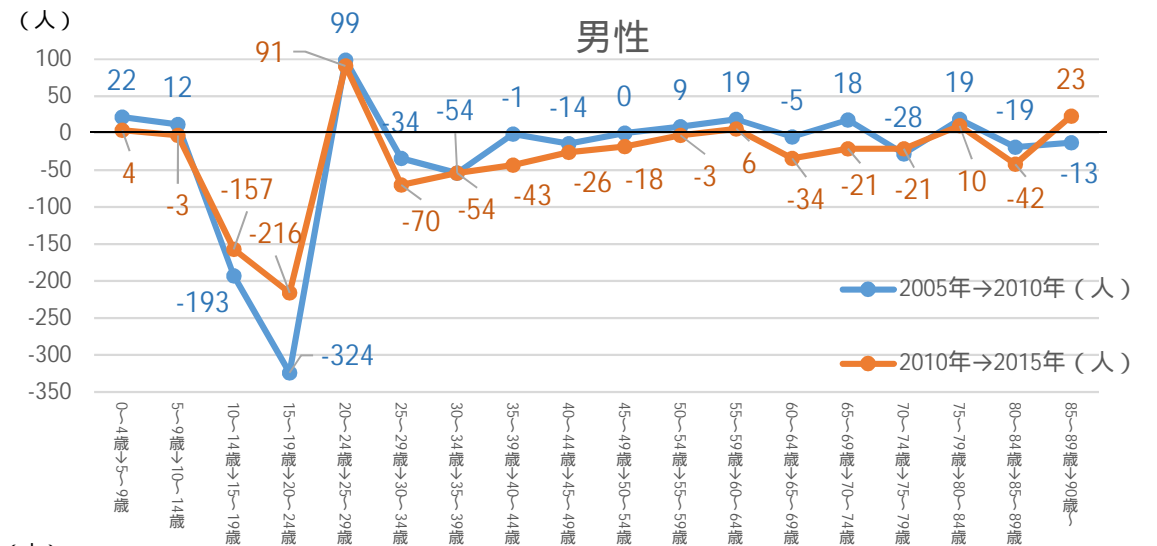
年齢階級別純移動数（ある年齢幅の人数が5年後にどれくらい増減があったかを示すもの。）

例：男性で2005年に0～4歳の方が5年度の2010年に5～9歳となったときに22人増えた。

（RESASを基に作成（元データ 国勢調査））

○「2005年 2010年」と「2010年 2015年」を比較するとグラフの形に同じような傾向がみられますが、一部の階級に次のような変化が起きています。

- ・男性、女性とも「10～14歳 15～19歳」と15～19歳 20～24歳」（進学や就職時）における純減数が縮小している。
- ・「20～24歳 25～29歳」（大学卒業時）以降の年代の純減数が拡大している。
- ・「25～29歳 30～34歳」における純減数が拡大していることから、婚姻や仕事に関わる転出が増加していると推測される。
- ・女性においては、「15～19歳 20～24歳」において転出した者が、「20～24歳 25～29歳」の年齢になったときに戻ってこなくなっている。



(4) 社会動態の傾向

転入元・転出先とその事由(2017年 男性)

○転入

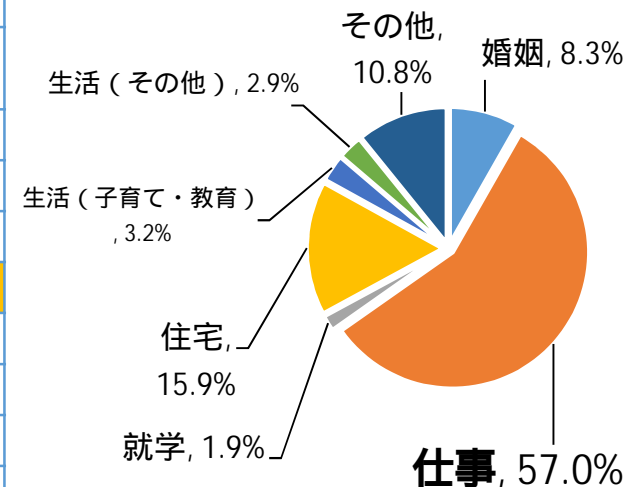
転入前住所	転入数 (人)	各市町村の 占める割合
高岡市	86	27%
富山市	41	13%
射水市	14	4%
金沢市	8	2%
南砺市	8	2%
砺波市	8	2%
小矢部市	7	2%
その他	152	47%
合計	324	100%

* RESASを基に作成(元データ 住民基本台帳移動報告)

転入前住所	内訳の割合						
	婚姻	仕事	就学	住宅	生活 (子育て・ 教育)	生活 (その他)	その他
高岡市	13%	24%	3%	36%	6%	3%	14%
富山市	10%	74%	2%	6%	0%	2%	6%
射水市	7%	29%	0%	29%	7%	7%	21%
金沢市	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
南砺市	25%	50%	0%	13%	0%	13%	0%
砺波市	13%	50%	0%	38%	0%	0%	0%
小矢部市	14%	57%	0%	29%	0%	0%	0%
その他	4%	77%	1%	5%	3%	2%	6%

* 市民課窓口アンケートを基に作成

事由ごとの割合(転入・男性)



○転出

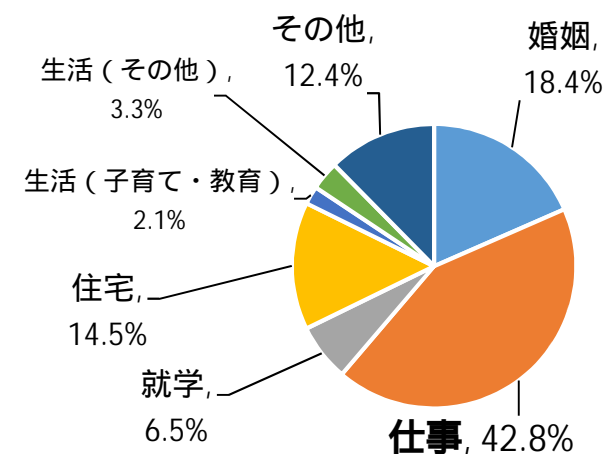
転出後住所	転出数 (人)	各市町村の 占める割合
高岡市	128	31%
富山市	72	17%
金沢市	23	5%
射水市	21	5%
砺波市	8	2%
南砺市	6	1%
小矢部市	6	1%
滑川市	4	1%
その他	151	36%
合計	419	100%

* RESASを基に作成(元データ 住民基本台帳移動報告)

転出後住所	内訳の割合						
	婚姻	仕事	就学	住宅	生活 (子育て・ 教育)	生活 (その他)	その他
高岡市	26%	23%	5%	26%	3%	5%	12%
富山市	29%	36%	5%	13%	4%	4%	10%
金沢市	4%	72%	12%	4%	0%	4%	4%
射水市	34%	24%	0%	28%	3%	0%	10%
砺波市	27%	45%	0%	18%	0%	9%	0%
南砺市	33%	33%	0%	17%	17%	0%	0%
小矢部市	25%	63%	0%	13%	0%	0%	0%
滑川市	60%	20%	0%	0%	0%	0%	20%
その他	5%	61%	10%	6%	1%	2%	17%

* 市民課窓口アンケートを基に作成

事由ごとの割合(転出・男性)



(4) 社会動態の傾向

転入元・転出先とその事由(2017年 女性)

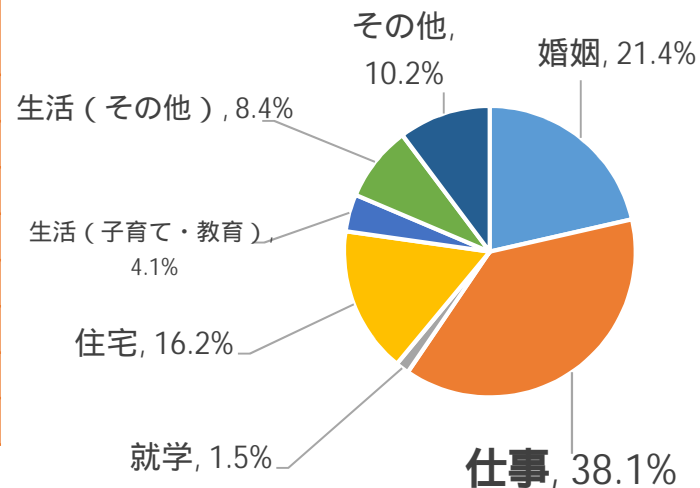
○転入

転入前住所	転入数 (人)	各市町村の 占める割合
高岡市	96	30%
富山市	27	8%
射水市	25	8%
金沢市	16	5%
砺波市	11	3%
南砺市	7	2%
小矢部市	4	1%
その他	135	42%
合計	321	100%

転入前住所	内訳の割合						
	婚姻	仕事	就学	住宅	生活 (子育て・教育)	生活 (その他)	その他
高岡市	28%	11%	3%	31%	7%	12%	10%
富山市	24%	47%	0%	15%	0%	6%	9%
射水市	35%	0%	0%	39%	4%	13%	9%
金沢市	25%	46%	0%	4%	17%	0%	8%
砺波市	11%	67%	0%	22%	0%	0%	0%
南砺市	25%	25%	0%	25%	0%	0%	25%
小矢部市	25%	0%	0%	25%	50%	0%	0%
その他	14%	61%	1%	2%	1%	8%	12%

* 市民課窓口アンケートを基に作成

事由ごとの割合(転入・女性)



* RESASを基に作成(元データ 住民基本台帳移動報告)

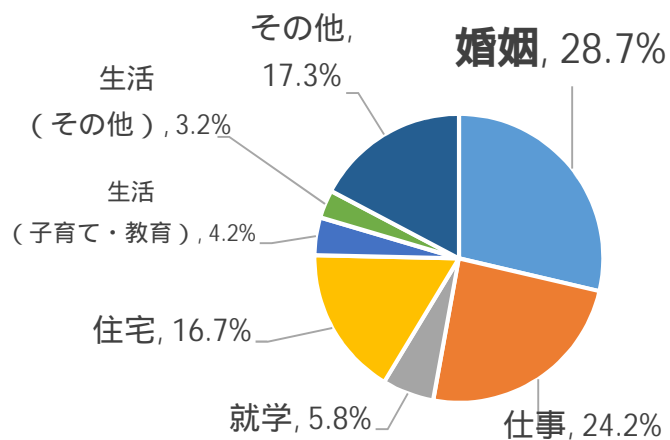
○転出

転出後住所	転出数 (人)	各市町村の 占める割合
高岡市	149	34%
富山市	65	15%
射水市	34	8%
金沢市	17	4%
砺波市	12	3%
小矢部市	6	1%
滑川市	6	1%
南砺市	5	1%
その他	150	34%
合計	444	100%

転入前住所	内訳の割合						
	婚姻	仕事	就学	住宅	生活 (子育て・教育)	生活 (その他)	その他
高岡市	34%	9%	3%	32%	4%	4%	14%
富山市	34%	23%	3%	16%	5%	4%	16%
射水市	58%	11%	2%	8%	8%	2%	11%
金沢市	29%	50%	7%	14%	0%	0%	0%
砺波市	50%	36%	0%	14%	0%	0%	0%
小矢部市	50%	0%	0%	50%	0%	0%	0%
滑川市	44%	11%	0%	0%	33%	0%	11%
南砺市	37%	9%	0%	0%	28%	0%	9%
その他	11%	41%	11%	4%	2%	3%	27%

* 市民課窓口アンケートを基に作成

事由ごとの割合(転出・女性)



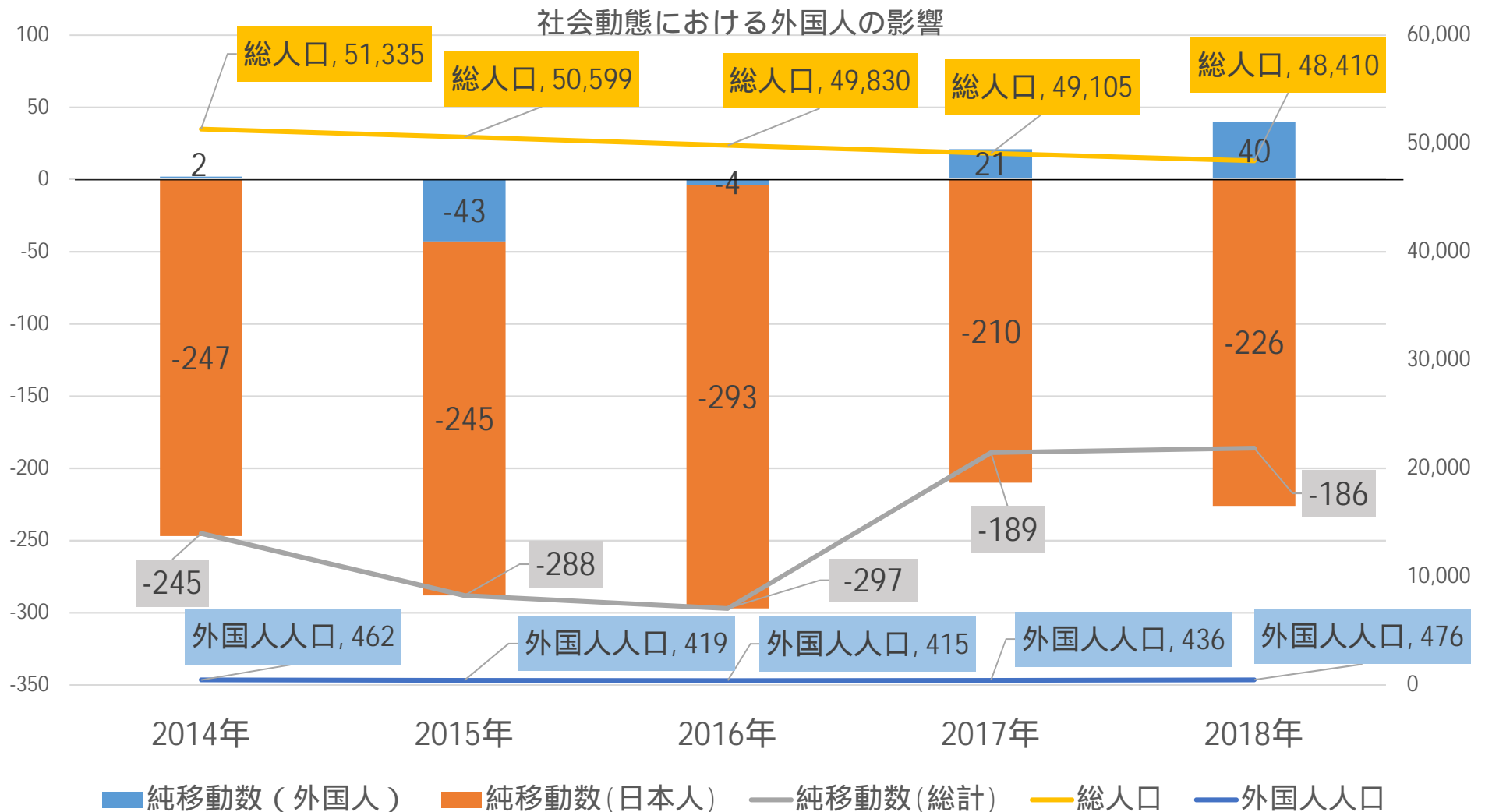
* RESASを基に作成(元データ 住民基本台帳移動報告)

(4) 社会動態の傾向

社会動態における外国人の影響の現状

(住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)を基に作成 調査期間 各年1月1日～12月31日)

- 総人口が減少し続けているのに対して、外国人は増加傾向にあります。
- 日本人の純減が続いているのに対して、外国人の純増が続いています。
- 本市の人口動態における外国人の影響は拡大しています。

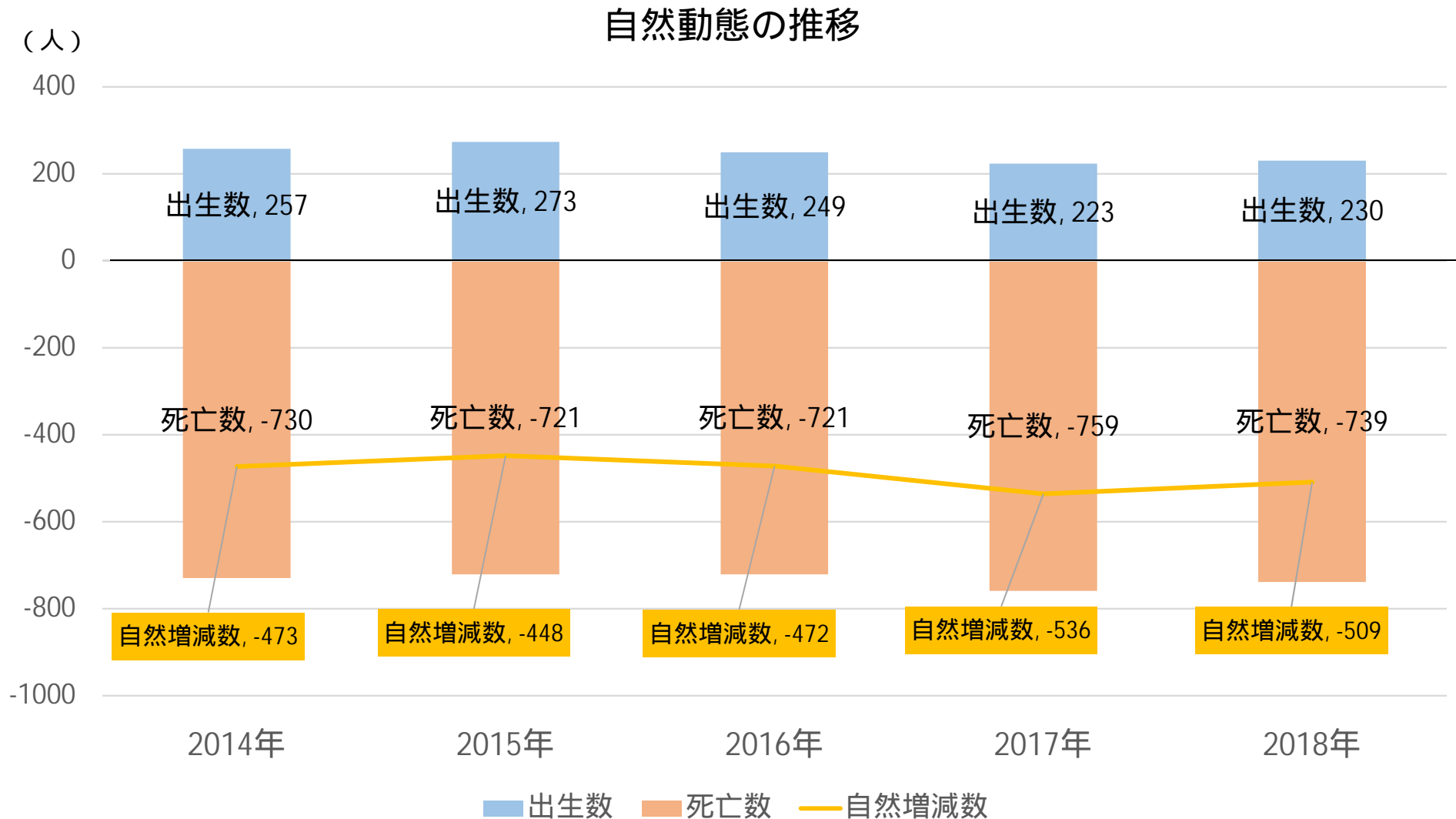


(5) 自然動態の推移

出生数と死亡数の推移

(住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (総務省) を基に作成 調査期間 各年1月1日～12月31日)

- 死亡数が出生数を大幅に上回っており、自然減が続いています。
- また、出生数は減少する傾向にあります。

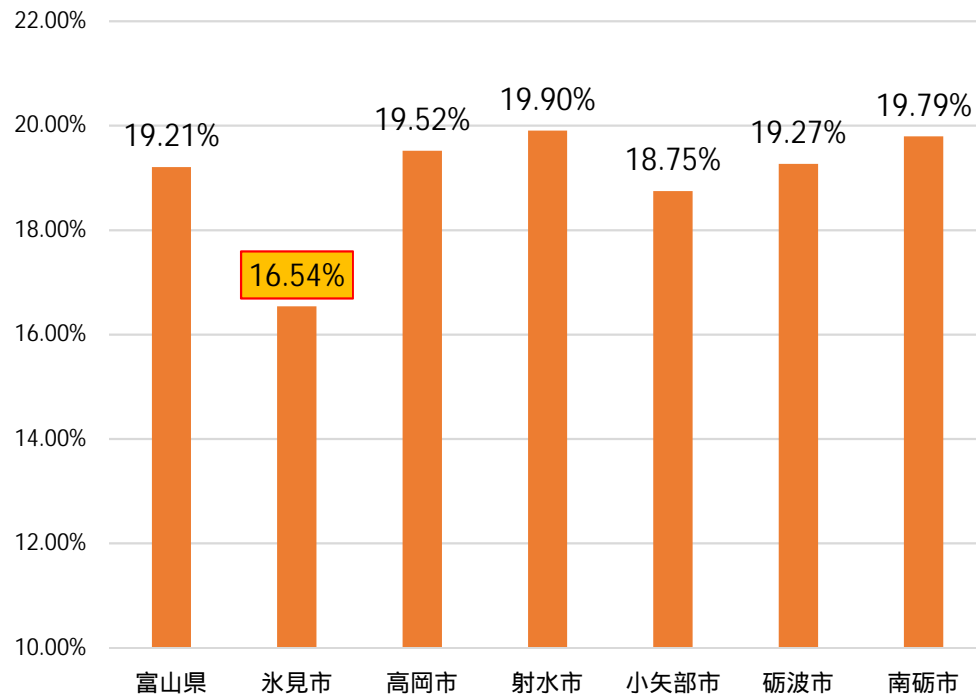


(6) 自然動態の傾向

期間合計特殊出生率、子ども女性比率

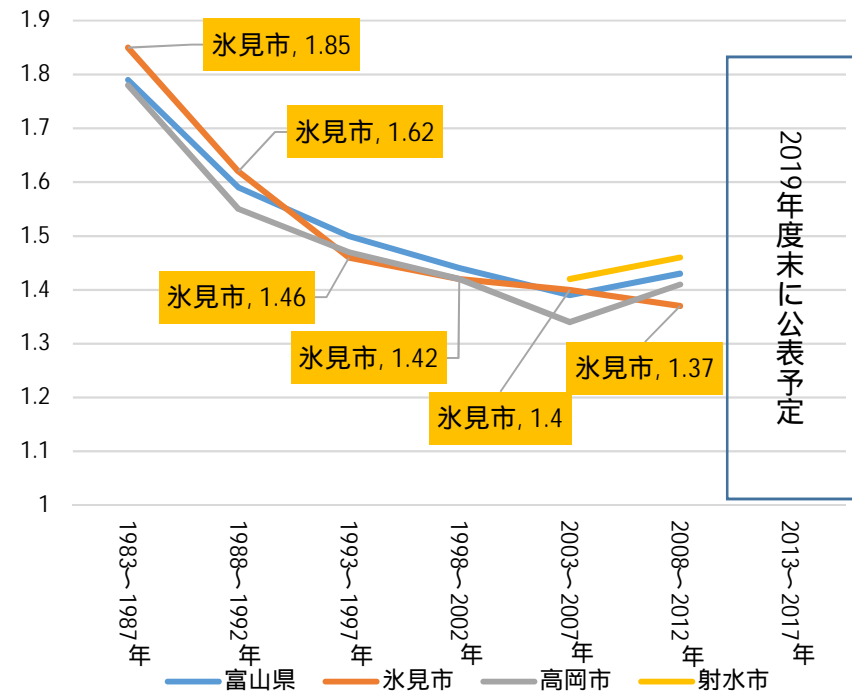
- 子ども女性比率（15歳～49歳の女性数に対する0～4歳の子どもの数の割合）を近隣市と比較すると、氷見市は一段と低く、子どもが生まれにくい状況にあることが推測されます。
- 合計特殊出生率の推移をみると、氷見市は、過去には県や近隣市と比較して高い水準にあったものが低下を続け、2008～2012において最も低い水準まで落ち込みました。
- 合計特殊出生率について県や近隣市においては、回復傾向が現れているにもかかわらず、氷見市においては継続して低下しています。

子ども女性比率（県・近隣市との比較）



* 富山県の人口（富山統計ワールド）を基に作成

合計特殊出生率の推移

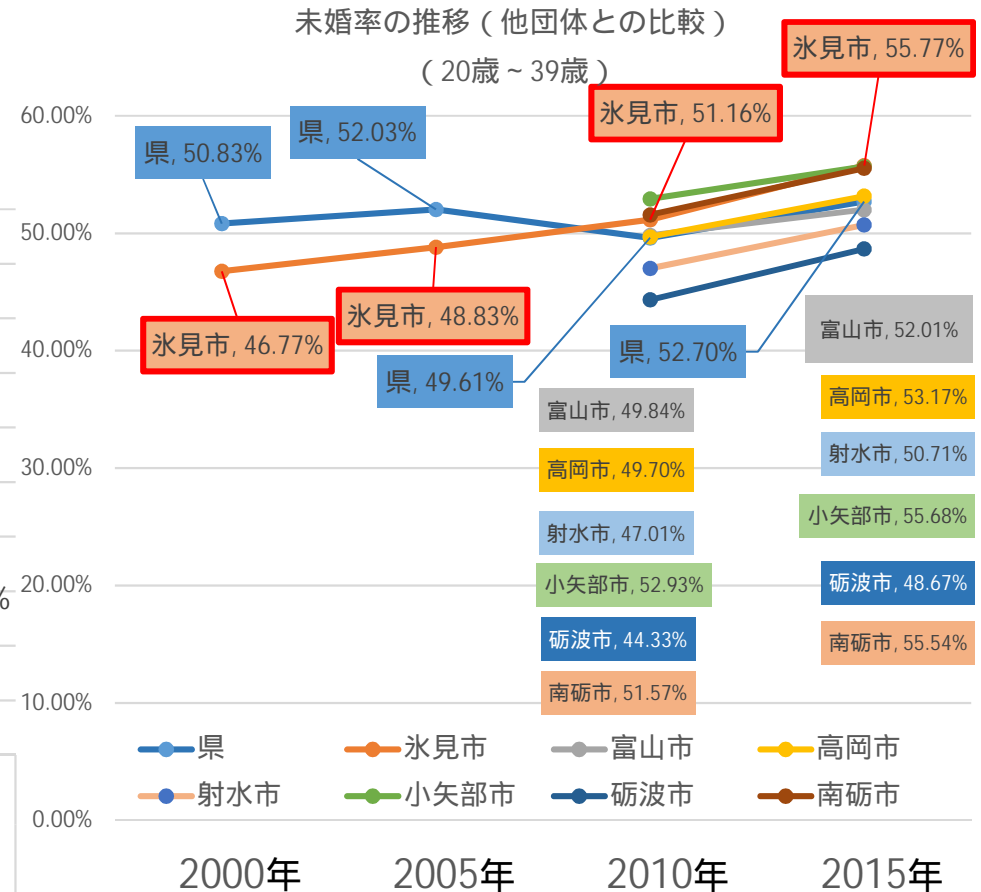
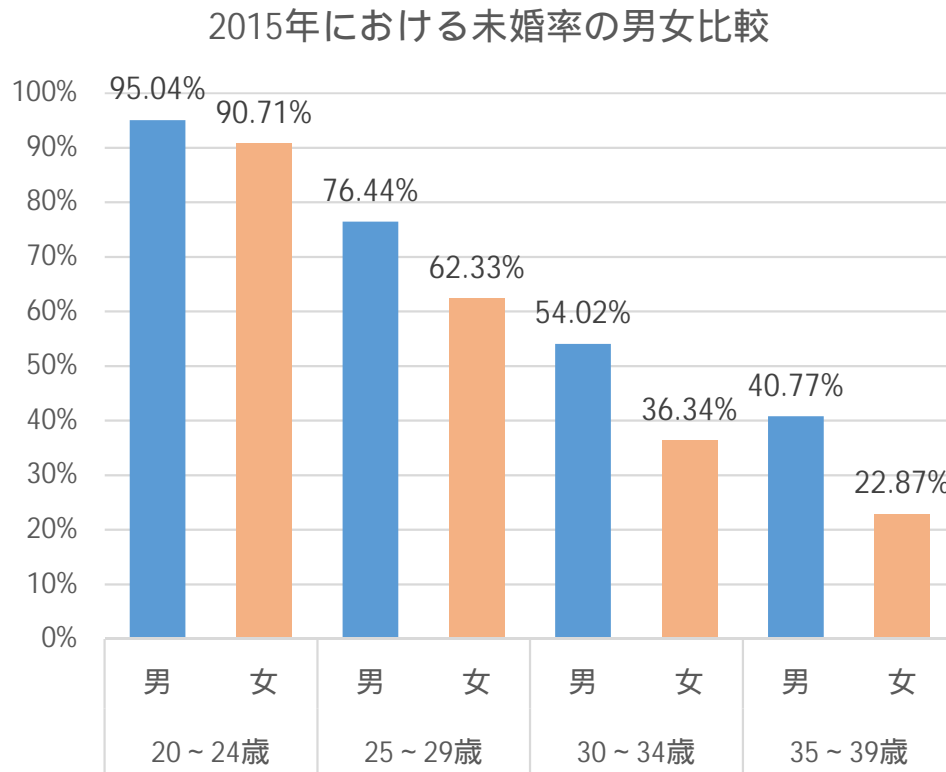


* 人口動態保健所・市区町村別統計（厚生労働省）を基に作成

(6) 自然動態の傾向

未婚率の推移

- 男女の未婚率（20歳～39歳の人口に対する有配偶者（死別、離別（離婚）は含まない）の割合）を比較すると総じて男性の未婚率が高くなっています。
- 県や近隣市と比較すると、本市の未婚率は高い水準にあります。



* 国勢調査を基に作成

(6) 自然動態の傾向

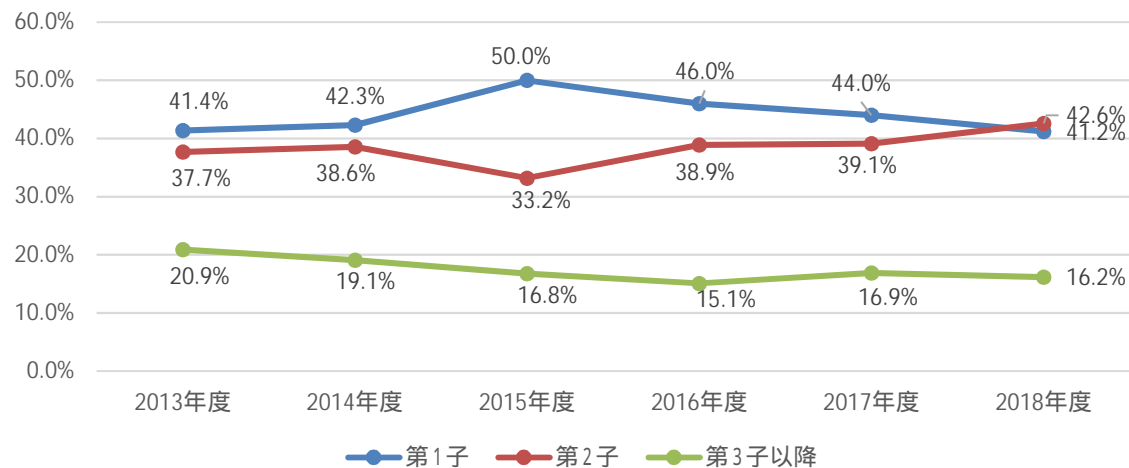
出生内訳の推移

○近年の出生数は減少傾向にあるものの、第2子の出生割合は上昇しています。

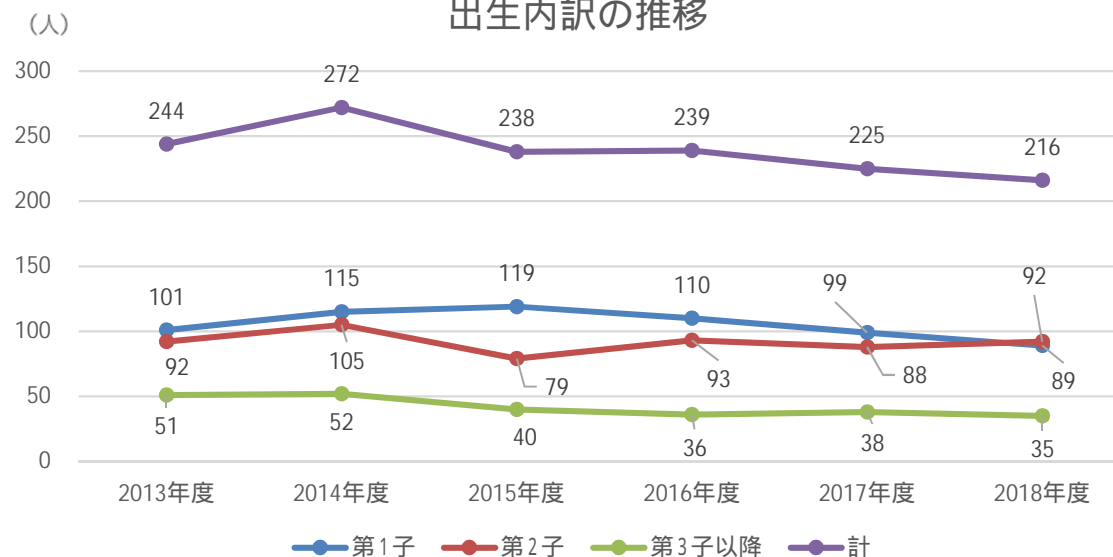
○出生総数が減少している中でも第2子の出生数は増加しています。

○第2子の保育料無料化などの子育て支援施策を実施した結果、2人目の子供を持ちたいと考える夫婦がその希望を叶えやすいような環境が整えられつつあると推測されます。

出生内訳の割合の推移



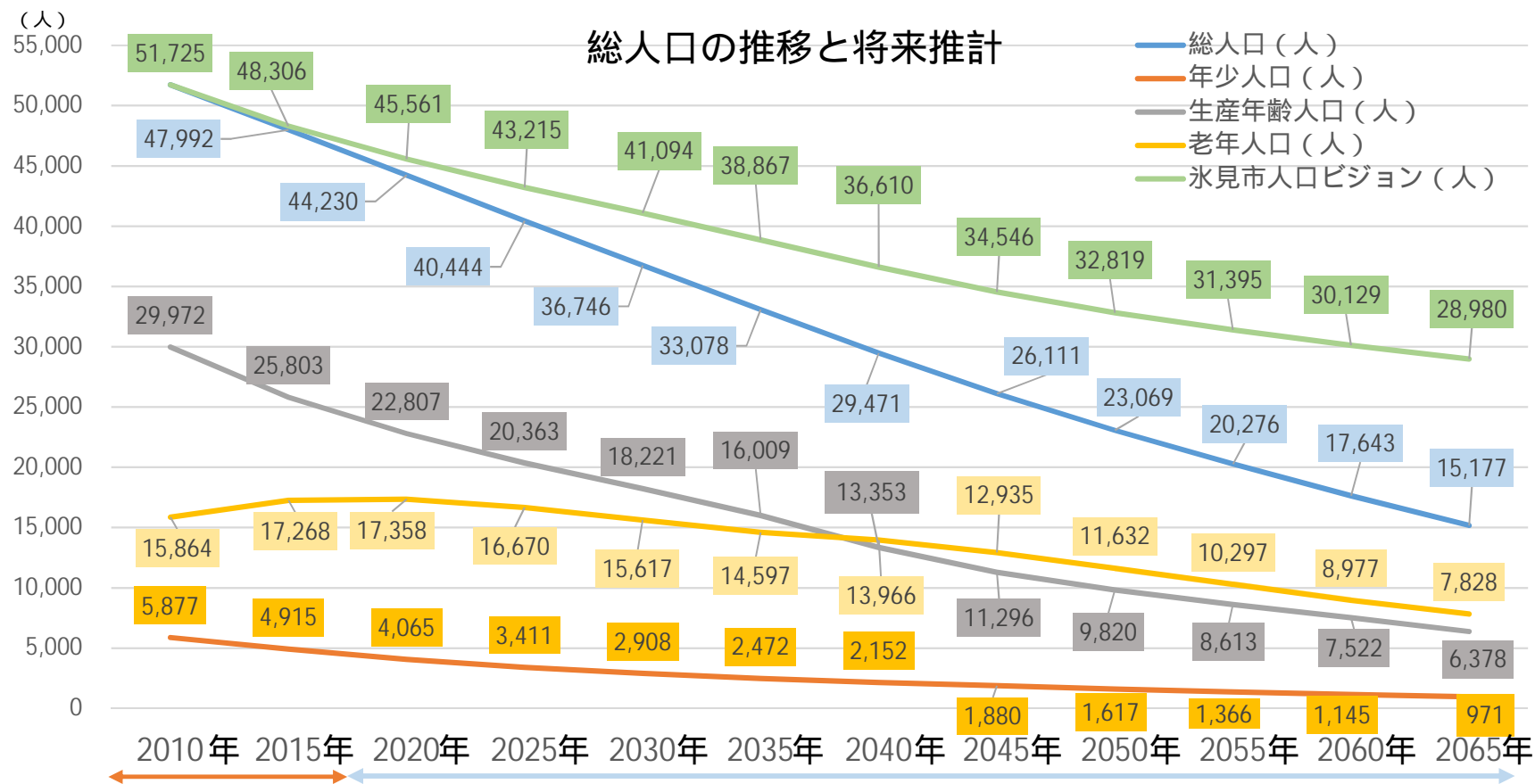
出生内訳の推移



* 子育て応援券申請実績から作成

(7) 将来推計 (国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所推計 (準拠) に基づき作成)

現在のところ、現行の人口ビジョンで目標としていた人口の推移と最新の将来推計を比較すると、大幅な乖離が生じてしまっています。



国調年	実績		推計									
	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
総人口 (人)	51,726	47,992	44,230	40,444	36,746	33,078	29,471	26,111	23,069	20,276	17,643	15,177
年少人口 (人)	5,877	4,915	4,065	3,411	2,908	2,472	2,152	1,880	1,617	1,366	1,145	971
生産年齢人口 (人)	29,972	25,803	22,807	20,363	18,221	16,009	13,353	11,296	9,820	8,613	7,522	6,378
老年人口 (人)	15,864	17,268	17,358	16,670	15,617	14,597	13,966	12,935	11,632	10,297	8,977	7,828